

人生100年時代 健康寿命で生き抜くための腰痛を如何乗り切るか

腰痛矯正・

腰痛改善ベルト

腰痛ナックス

平成28年の厚生労働省による国民生活基礎調査の概況では、日本人男女の自覚症状の悩みとして、腰痛は、男性では第1位、女性では第2位の悩みという発表があります。全国で約2800万人！人口の1/4にも及ぶこの人数。こうした多くの悩みがある症状です ↗

↓ので、腰痛ベルトは、病院で処方されるものからドラッグストア等で市販されているものまで、数多く存在します。この腰痛ベルトは、従来品の問題点が改善された新しいタイプの腰痛ベルトとなります。

是非ともお試しいただきたいものです。

腰痛ナックスは、戦後から義肢装具を扱っている小原工業が提案する骨盤矯正・腰痛改善ベルトで、臨床現場のノウハウから取り入れた日常生活(長い時間)に使用するための骨盤矯正ベルトです。



「腰痛ナックス」は、日常生活で長時間使用するための一般向け矯正ベルトです。腰痛は、骨盤の緩みや歪み・ズレ・開きなどで腰まわりの筋肉に負荷がかかり引き起こされます。



「腰痛ナックス」は一定の位置で適切に骨盤を締め、正常な位置に戻すよう矯正をサポートし、腰痛を改善・予防します。左右を編むように巡らせたユニットパートが、腰の湾曲に沿った状態で締め付け、腰を安定させます。縦幅が広いので、慢性的な腰痛やギックリ腰などに悩む方におすすめです。また、片手で圧力調整ができるため、軽く紐を引っ張るだけで小さな力でも簡単に必要な最大圧力が得られます。

腰痛ナックスは このような方にお勧めです

腰痛ナックスは、腰痛でも活動範囲を広げたい方のためにデザインされています。

犬の散歩、立ち仕事、洗車、ドライブ等の日常の活動から各種スポーツ、乗馬、ハイキング、重量挙げのような激しい活動まで、腰痛ナックス(ブーリーシステム)を使用することで、ストレスや負担を腰に感ずることなく活動的に過ごすことができます。

腰痛ナックスは、もともと整形外科医のニーズにあうようにデザインされ、ブーリーシステムが採用されています。

また、このブレースは特に運動選手のニーズにあうようにデザインされています。

※ブーリーシステムとは、ロープとブーリー(滑車)を使い、歩行用ラインのテンションを確保する仕組みを云います。

仕 様

生 産 国 韓国
材 質 ナイロンメッシュ、ナイロン樹脂

ウエストサイズ(cm)

S	M	L
63~76	76~89	89~102

特 徴

1. 通気性があり、耐久性のある材質
2. 片手で簡単にできる圧力調整機能
(必要な力は従来の1/5)
3. 理想的な圧力の方向性
4. 煩わしさのない装着性
5. かさばらないコンパクト設計

腰痛ナックス

装着は非常に簡単



装着手順



1. 本体を左右に広げて、持ち手をメッシュ上のベルクロマジックに仮に止めておきます。



2. 持ち手が左側にくるように腰に巻き、正面で右側が上になるように止めます。



3. ブーリーパワーユニットが背骨の中心にくるように調整します。



4. 固定する位置が決まったら、持ち手をベルクロマジックから離し、好みのサポート感が得られるまで引張り、ベルクロマジックにとめます。



5. 緩めたい時は、持ち手をベルクロマジックから離し、任意の場所にとめます。

—製造販売元—

義肢装具総合メーカー 株式会社 小原工業
生 産 国 韓国
腰痛ナックス
16,280円(税込)



—取扱元—

全省統一資格取得企業
JEIC販売株式会社
東京都八王子市久保山町 2-36-4
TEL042-659-3110
E-mail info@jeic-sa.jp http://jeic-sa.jp

—販売代理店—

諦めないで！ これがある！ 一般的な製品と本製品

他社品の一般的な製品で問題とされている点を、腰痛ナックスとSIベルトでどのような改善がされたかを挙げてみました。

他 社 の 製 品



腰 痛 ナ ッ ク ス と S I ベ ル ト



1 材 質 に つ い て

一般的な腰痛ベルトは、ゴムやポリウレタンでできています。こうした材質は柔らかい素材なため、体へのフィット感が得られる反面、どんなに締め上げても伸びてしまい矯正力が逃げてしまい、強い腹圧を得ることはできません。また、長く使用していると、材質自体が伸びてしまったり、加水分解で素材自体が劣化し矯正力がなくなってしまいます。

1 材 質 に つ い て

腰痛ナックス・SIベルトは、ナイロンメッシュという通気性のあるプラスチック素材でできており、ゴムやポリウレタンのような柔らかさがないので矯正力が逃げず、得たい圧力を継続して長く得ることができます。実際に使用した方は従来品と比較して、圧倒的な圧力の違いを体感することができます。また、プラスチックにも多少の弾力性があるので、適度なフィット感も得られます。本商品は、臨床の現場で装具としても使用されており、長期間使用しても機能にズレや歪の変化はなく厚生労働省の定める更生用装具としての耐用年数2年を満たすように作られています。

2 圧 力 の 調 整

腰痛ベルトは、すぐ緩くなってしまうということがよく言われています。それはベルトに弾性があるので緩く感じてしまうと、体は常に動いているのでズレも生じ、また、足のむくみのように常に変化しているので、長時間使用していると緩みが生じます。一般的な腰痛ベルトでは、再度、広げて締め直さないと緩みを解消することができません。また、補助ベルトのある二重締めの商品もありますが、補助ベルトがゴム性なので引っ張る際に強い力が必要となります。

2 圧 力 の 調 整

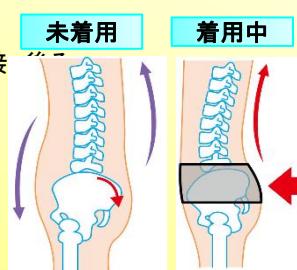
腰痛ナックス・SIベルトは、伸びない素材でできており体にかかる圧力も強いのでズレや緩みが生じにくくなっています。緩みが生じた場合でも、一度締めた場所から、片手で簡単に圧力の調整が行えます。調整する力の強さは滑車の数に比例するのですが、腰痛ナックスは従来品の1/5の力、SIベルトは1/3の力で調整することができ、どんなに力がない人でも容易に調整することができます。

3 圧 力 の 方 向 性

補助ベルトが付いている腰痛ベルトは、両手で締め上げます。圧力の支点となるプラスチック環等が横にあるため、左右均等にバランス良く締めないと、ズレが生じて適切な圧力が得られません。また、左右のベルトがバラバラになり間違った箇所に付けてしまったり、間違った方向に引いてしまう事もあります。引く力も強い力が必要となります。こうした煩わしい装着方法がやがて使用されなくなってしまう原因にもなっています。

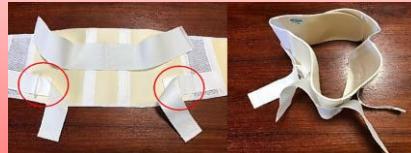
3 圧 力 の 方 向 性

腰痛ナックス・SIベルトは、直接を締めることにより、後方から前方に向かっていくように圧力がかかり体幹を立ち上げます。横で締めるよりも効果的で安定した圧力が得られます。



4 締める方法に つ い て

従来の腰痛ベルトは、左右から圧迫していくので、横や前から締め付けられるように感じます。前からお腹が押された感じになるので、座ったり屈んだりする動作をする時など嫌な圧迫感が感じられます。



4 締める方法に つ い て

腰痛ナックス・SIベルトは、片手で締めますが、締まる部分が後ろにあるため、引っ張った方にズレることはありません。片手で操作できるとメリットとしては、間違えずに素早く操作ができるので、急な腰痛への対応、立つとき座る時の日常動作、赤ちゃんを抱っこしながらの調整、肉体労働をしながらの使用など、何かをしながらの操作が行え、調整の面倒くさが解消されています。こうした簡便さが、継続的な使用に繋がります。

5 大きさの問題

一般的な腰痛ベルトは、縦の幅が大きくかさばると言われています。それは、締める部分が写真のように2本のベルトが上下配置され作られているからです。これは圧力を強くするためには必要な構造なのですが、大きくなってしまいます。

5 大きさの問題

腰痛ナックス・SIベルトは、この部分にプーリー(滑車)機構を配置しているので、コンパクトな設計となっています。

